DESIGN WORKS

最小級マガジン「田中」／フリーペーパーデザイン＆VIデザイン

デザインの力でマイナスをプラスに変える

── 先ず隗より始めよ。自身をデザインし、よりよい人生を。──

田中雄一郎／ブランディングディレクター、グラフィックデザイナー
クオデザインスタイル代表

大抵1クラスに一人はいた「田中」さん。全国におよそ約137万人いて、これは青森県の人口に匹敵するようだ。姓の由来は意外にも「田の中」というよりも、「田を所有している」という意味に近いらしい。自分も今まで「田中」という苗字で40年間生きてきた。あまりにもありふれていて、到底「田中」だけでは通じない。「どちらの田中様ですか？」十中八九聞き返される。漢字で書いても直線だけで構成されている安易さや、決してお洒落な格式ある苗字でもないのでどこかあきらめ感が漂っていた。
ところがある日、妻が娘の体操服の名前の箇所に、直線できれいに「田中」という文字をレタリングしているのを見て突如、「田中」って美しい、と感じた。またそのシンプルな形と汎用性を逆手にとって、「田中」という漢字を図形化（記号化）すると面白いのではと思った。ちょうど妻の写真と私のデザインを組み合わせたフリーペーパーを創りたいと思っていたところだったので、うまくデザインしてタイトルにすればインパクトがあるものになるかもと。

実際「田中」という「文字」から「図形（記号）」へと孵化する寸前、もしくは直後の一瞬を切り取って表現したこのタイトルロゴは、各方面から大きな反響があり、デザイン業界からも高く評価された。日本グラフィックデザイナー協会のJAGDA賞と東京タイプディレクターズクラブのTDC賞にノミネートされ、東京ADC審査会でもちょっとした話題になったようだ。
発想の転換とデザインの力で、今まで完全にゼロいやどちらかというとマイナスイメージだったものをプラス、自分の武器に変えることができた。40年近く生きてきて初めて「田中」で良かったと、両親とご先祖様に感謝した。ローカルデザイナーの第一人者で高知のデザイナー・梅原真さんも言っているように、宝は、すぐ足もとにあったのだ。まさに近くて見えぬは睫。

地域ではまだまだデザインの社会的意義、経済的価値は周知されておらず、地域在住デザイナーの存在自体も知られていない。しかしその大きな原因の一つに我々地域在住のデザイナー自身がデザインの啓蒙活動、つまりブランディングができていないことがある。普段企業などのブランディングという業務をしておきながら、デザイナー自身が自己ブランディングできていないのである。デザインの役割や効力、なぜ必要なのか？そしてデザイナーは東京だけではなく身近にもいるので、より密にかつ真摯に向き合いながらデザインに取り組み、企業と地元を活性化させますよ、ということを地域に広くアピールしていく必要がある。それもデザイナーの大きな仕事だと考え、「田中」の刊行を始めた。

「田中」は基本B5サイズ4ページで、妻の写真とともに実績を紹介しつつ、デザインの役割、意義などを綴っている。一般的にフリーペーパーと言えば何十ページと言った冊子で内容が充実したものを言う。しかしそれは自分一人の編集力と予算では到底できない。ならば自分ができる範囲でやろうと。NHK大河ドラマ「龍馬伝」の最終回で岩崎弥太郎が大政奉還を成し遂げた龍馬に向かって、「おまんはええのう、何もかもがうまくいって」と僻みめいたことを言った。しかし龍馬はこう返した。「わしはわしができることをしただけぜよ。おまんにはおまんにしかできんことがあるじゃろ。この金（弥太郎が銃を売って稼いだ金）で日本一の会社を立ち上げよ。それはわしにはできんことぜよ。（要約）」と。
地方だからとか、自分には才能や予算がないからだとか、あいつは環境が恵まれているからだとか、そういう妬みや僻みを言っていても何も始まらない。自分にしかできないこと、自分にもできることは必ずある。それを見つけて実行することこそ、自分自身をデザインするということであり、人生をよりよく生きる秘訣であることをこの「田中」から学んだ。先ず隗より始めよ。

AD・D・C／田中雄一郎　P／田中園子　DF／QUA DESIGN style

岡山を拠点に活動する
グラフィックデザイナー・田中雄一郎と
写真家・田中園子が綴る
最小級マガジン「田中」刊行

A Magazine:GraphicDesign/BrandingDesign/Photograph　Published by Yuichiro Tanaka & Sonoko Tanaka (QUA DESIGN style)
info@quadesign-style.com　www.quadesign-style.com

田中雄一郎／Yuichiro Tanaka　QUADESIGNstyle（クオデザインスタイル）代表　www.quadesign-style.com

1975年岡山市生まれ。立命館大学理工学部卒業後、都市計画コンサルタントを経て、2004年妻・園子とともにQUA DESIGN style（クオデザインスタイル）設立。同時にデザインを独学。現在岡山を拠点に活動し、企業、店舗、農園、医療施設、美術展などのブランディングデザインを中心に手掛ける。主な仕事に岡山大学のコミュニケーションシンボルデザイン&VI、福武教育文化振興財団のCI、岡山芸術回廊のVI、ルネスホールのVI、地中美術館、李禹煥美術館のパンフレットデザインなど。2015年4月渋谷ヒカリエ内d47MUSEUMで開催の「NIPPONの47人 2015 GRAPHIC DESIGN」展に岡山県代表として選出。
また「地域を熱くする注目のデザイナーたち」「成功させるブランディングのプロセス」「デザインノート:グラフィックデザイナー新鋭精鋭101人 2015」など作品掲載書籍多数。
東京TDC賞PrizeNominee、JAGDA賞ノミネート、JAGDA新人賞ノミネート、中国国際ポスタービエンナーレ2013 Finalist、東京ADC入選など。